

2015年度SIP-adus施策概要

施策名	自動走行システムの実現に向けた諸課題とその解決の方向性に関する調査・検討における世界標準のアクセシビリティを目指す市民参加型の混雑・渋滞予測に係る調査検討
担当組織	計量計画研究所・道路計画・日立製作所コンソーシアム
作成者名 毛利 雄一（一般財団法人計量計画研究所 企画部長）	
プロジェクトの目標	
<p>高齢化社会と交通制約者の社会参加を促進させる次世代都市交通システムとして、ART(Advanced Rapid Transit)が検討されている。一方で、公共交通利用者(とくに交通制約者)が、大規模イベント時に快適・安全に移動するために、自ら情報を取得し、混雑を避けるように移動経路や時間帯を選ぶことができるような手法開発と政策展開が望まれている。</p> <p>本調査では、2020年東京オリンピック・パラリンピックの適用・実施を目指した情報提供の方法、行動変容の促し方、啓蒙活動等を検討する。特に、本調査では、1)ビッグデータ等を活用したマクロ、ミクロな視点からの交通状況解析、2)混雑情報等の提示による行動心理の解析と行動変容の仮説構築、3)実証実験計画および啓蒙シナリオ設計を行う。</p>	
今年度の取組内容や結果等の概要	
<p>1) ロンドンオリンピック・パラリンピック等における混雑・渋滞緩和に関する市民への情報提供、行動誘導、事前の啓発活動等を調査・整理し、日本での適用可否とその対応を明確化した。</p> <ul style="list-style-type: none">・行動の変え方は「4つのR(Reduce, Re-route, Ro-mode, Re-time)」で整理できる点、様々な「情報提供の仕方」(セグメント、提供媒体、チャンネル等)により4つのRを促している点を確認・整理した。・取組の結果、私的な交通、業務交通(物流含む)のそれぞれに効果が見られ、一部の効果はオリパラ後も継続していた点を確認・整理した。 <p>2) ビッグデータ等を用いたマクロ的およびミクロ的視点からの解析により、日本人および外国人観光客等の移動に関わる経路選択や移動集中時間帯情報を把握し、その実態を明確化した。</p> <ul style="list-style-type: none">・施設の立地状況によって滞留者や来訪者の行動特性は異なる点、国籍による滞留状況の違い等を確認・整理した上で、施設の立地状況や来訪者の国籍等の違いを考慮し、複数の組合せが検証できるような実証実験を行うことが重要であることを明らかにした。 <p>3) 上記1)、2)の成果を踏まえ、移動経路や時間帯を分散させるための事前の情報提供方法、行動変容の促し方、啓発活動等方法、次年度以降の実証実験計画の設計・提案した。</p> <ul style="list-style-type: none">・次年度の実証実験計画候補として「イベント来訪者向け情報提供」「交通事業者が実施する情報提供」「企業への情報提供」を提案し、次年度実施する実験計画の具体案として、「イベント来訪者向け情報提供」を詳細立案した。・さらに、2020年を見据えると、対象とするセグメントの拡大や関係者間の連携等に留意しながら中長期的なシナリオを策定する必要がある点を示唆した。	
今後の主な課題、取り組むべき内容	
<ul style="list-style-type: none">・関係主体の協力のもと、事前の情報提供による混雑緩和を目指した実証実験を実施することが望まれる。・2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えると、情報提供の対象とするセグメントの拡大や関係者間の連携等に留意しながら中長期的なシナリオを策定し、行動に移す必要がある。	